

上田女子短期大学附属幼稚園での 「陶芸あそび」と「版画あそび」

笹井 弘

はじめに

私は本学に3年前「図画工作」と「造形表現指導法」の担当教員として着任した。2年前より本学に隣接する附属幼稚園年長クラスの2クラスの園児、約50名に対して陶芸と版画の指導を行っている。今まで美術館などの社会教育活動の中で親子参加を条件に幼児と関わった経験は持っていた。また、子育ての経験もあるものの、特に造形を通して幼児と関わる経験を持たなかった私にとっては、幼児そのものに対する知識不足と言葉や文字による導入や工程の説明に対する不安があった。

そこで、1年目は社会教育活動での親の代わりになる補助要員を現場の先生方以外に本学美術サークルより募り人海戦術により不安の克服に臨んだ。美術サークルの学生は既に陶芸を経験しており、また造形を通しての幼児との関わりに強い意欲と興味を持っていたため助手としての造形指導に力を発揮してくれた。2年目は、学生の手伝いは借りずに臨んではみたが、依然言葉の問題と現場での造形指導に対する経験不足を実感している。

よって本稿では、幼稚園の現場における陶芸あそびと版画あそびの造形指導に関わる留意点や方法について反省を込めた報告に止めたい。

(1)「陶芸あそび」

テーマ <やきもので「はしおきをつくろう」>

初回 5月24日(月)10:30から11:50

1. 笹井からの話し (1)導入(写真1)
 - (2)全体の作業の流れの説明
 - (3)今日の作業の説明
 - (4)制作時の注意点



写真1 導入・説明

●園で用意するもの：粘土板・バケツ2個・手拭きタオル・雑巾

- 笹井が用意・手配するもの：美術サークルの学生・粘土・布・爪楊枝・粘土ヘラ・作品見本

2. 工程1の作業 (1)成形(6個程度)(写真2)
(2)作品に名前を彫る



写真2 成形

素焼き

2回目6月3日(木)10:30から11:50

1. 笹井からの話し (1)今日の作業の説明(下絵付け)
(2)釉薬の説明
2. 工程2の作業 (1)下絵付け(写真3)



写真3 下絵付け

- 園で用意するもの：パレット・水入れ・スポンジ・バケツ2個・手拭きタオル・雑巾

- 笹井が用意・手配するもの：美術サークルの学生・紙やすり・陶芸用絵具・面相筆・スポンジ(素焼き掃除用)



写真4 完成作品

釉薬がけ

本焼き・完成(写真4)

作品の引き渡し(6月9日頃)

<初回5月24日の導入での留意点>

- 1、多種多様な形の箸置き見本を用意した。(動物・野菜・果物・抽象的形・幾何学形態等)
- 2、ホワイトボードの文字と図、及び易しい言葉使いに気を付けた。
- 3、箸置きはどの家庭にもあり、子どもたちにとって珍しいものではない。そこで作る動機づけとして、本焼きされた箸置きが、今まで遊んできた油粘土や土粘土と違い半永久的に実際に使用することが出来る実用性、並びに多種多様な見本を見せることで造形意欲をくすぐった。また、家族の人数分(6個程度)を制作させることでプレゼントとしての制作意欲持たせた。

※反省点 言葉に時々大人向けの言葉が入ることを園の先生から指摘をうけた。

＜全体の作業の流れ・今日の作業の説明時の留意点＞

- 1、子どもたちの制作意欲が落ちない内に全体の作業手順については簡潔に行い、今日の作業について重点的に説明した。また、ホワイトボードに説明図を多数描いた。

＜作る時の留意点＞

- 1、粘土内に空気を入れた状態で焼くとどうなるか説明し空気を入れない制作上の方法を指導した。また、一度ちぎった粘土は付かないことを説明し、ちぎらないで造形する方法を指導した。
- 2、完成作品の裏に自分の作品と判る印をつけさせた。

＜2回目6月3日の作業(下絵付け)の説明時の留意点＞

- 1、絵具を厚く塗ると綺麗な焼き上がりにならない場合があることを見本を見せながら知らせた。しかし、絵具と水の分量は個々の指導とした。また、子どもは釉薬がけはしないが、釉薬を見せ焼成後ガラス質になり水を通さなくなること、絵具が剥落しなくなることを説明した。また、落としたら割れることも知らせた。

(2)「版画あそび」

テーマ <コラグラフによる「こんなおべんとうたべたいな」>

初回1月18日(火)10:30から11:30

1. 笹井の話し (1)導入(写真5)
(2)全体の流れの説明
(3)コラグラフの説明(見本)
2. 版下の制作(写真6)

- 園で用意するもの：ハサミ・のり・鉛筆
- 笹井が用意するもの：台紙・厚紙・布・アルミホイル・各種紐・エアキャップ等



写真5 説明を聞く

2回目1月20日(木)10:20から11:40

1. 笹井の話し (1)プレス機を使った作業の説明
(2)色の選択(カーボン紙)

2. プレス作業 (1) 幼児が自らプレス機を回しプレスする(写真7)

- 幼稚園が用意するもの：前回制作した版下
- 笹井が用意するもの：画用紙・カーボン紙



写真6 版下の制作



写真7 プレス

<初日1月18日の導入での留意点>

- 1、春に制作した箸置きの話から入り、毎日お母さんが作ってくれるお弁当の話に関連付けた。次に遠足や運動会の時の特別なお弁当を思い出させ、教員が作成した版下に登場するさまざまな食品は何か聞き、それが好きか嫌いか、また、何が特別好きかなどを出来るだけ大勢の幼児に聞いてお弁当に対して興味を持たせた。その後、プレス機を各自が回し印刷することを話しプレスを伴う版画に興味を持たせた。加えてプレス機は短大にあるため短大の教室での作業に興味を持たせた。

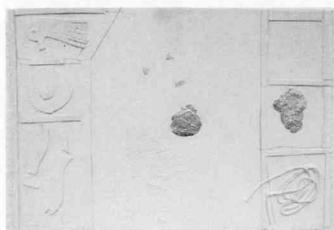


写真8 長方形のお弁当箱の版下

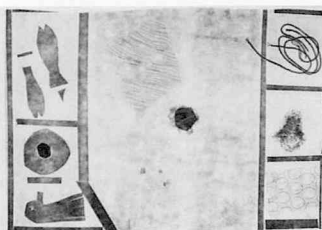


写真9 左の版下をプレスした作品

<コラグラフ版下制作時の留意点>

- 1、版画は鉛筆で形を描いただけでは形が印刷できないことを説明する。そのため版下見本を数点用意し材料を貼り付け凹凸を作らなくてはならないことを知

らせた。それでも中には鉛筆で形を描くだけで終わっている幼児も見かけられた。その場合は、私或いは保育者が鉛筆で描いた上に紙で同じ形を切り貼って見せた。

<2回目1月20日印刷工程での留意点>

- 1、短大の教室でプレス機を幼児自らの操作で印刷するに当たり、かなり緊張した様子が見られた。そのためカーボン紙から3色から2色を選択できるにも関わらず、1色しか選択しない幼児がいた。その場合は幼児に確認し1色だけで印刷したい希望が特に強くない場合は、私が判断しもう1色追加して絵にアクセントを付けた。

※反省点としてプレスの説明に入る前に幼児の緊張感を取るための何らかの試みが必要であった。

おわりに

幼児教育の現場での経験が浅い私が、曲りなりにも「陶芸あそび」と「版画あそび」が担当できたのは、担任の先生、及び園長と副園長始め多くの先生方、また、学生の支えがあつてのことでした。この場をお借りして皆様に感謝の気持ちをお伝えします。